

授業科目 ジェンダーと人権

【担当教員名】 山崎 裕二	対象学年	1	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

「ジェンダー」という言葉を知っていますか。セックス (sex) が生物学的性別・性差を意味する言葉であるのに対して、ジェンダー (gender) は社会的文化的性別・性差を意味する言葉です。「男には精巣があり、女には卵巣がある」という場合の性別・性差はセックスを意味するのに対し、「男は外で仕事をし、女は家庭で家事・育児・介護をするのがよい」という場合の性別・性差はジェンダーを意味します。授業では、家庭、学校、社会において存在するジェンダーの役割・規範などを人権という視点から見直し、その問題について考えます。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. ジェンダー、セクシュアリティなどの概念とそれが登場した歴史的背景を理解する。
2. 家庭におけるジェンダー問題について考える。
3. 学校におけるジェンダー問題について考える。
4. 職場におけるジェンダー問題について考える。
5. 保健・医療・福祉におけるジェンダー問題について考える。
6. これからの日本と国際社会におけるジェンダーについて考える。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズム、女性学・男性学		講義 (質疑応答・ミニ討論を含む)
2	親の子どもに対するしつけ、教育期待などにみられるジェンダーと人権問題		同上
3	就学前、小学校、中学校、高校、大学の教育にみられるジェンダーと人権問題		同上
4	企業などの社員の募集・採用・雇用などにみられるジェンダーと人権問題		同上
5	健康、病気、医療、介護などにみられるジェンダーと人権問題①		同上
6	同上②		同上
7	男女共同参画社会とジェンダー・人権、日本の国際貢献とジェンダー・人権		同上

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	なし (授業では毎回プリントを配布)			
参考書	伊藤公雄ほか『女性学・男性学-ジェンダー論入門』有斐閣、金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣、井上輝子ほか『女性のデータブック (第4版)』有斐閣、青山温子ほか『開発と健康-ジェンダーの視点から-』有斐閣、原ひろ子ほか『健康とジェンダー-I・II・III』明石書店			
その他の資料				

【評価方法】 出席、積極的な発言、レポート (毎回・最終)	【履修上の留意点】 ・新聞を毎日読む習慣をつけ、ジェンダーに関係する記事はスクラップしましょう。
----------------------------------	---

看護学科専門